

週間展望・回顧(豪ドル、南ア・ランド)

August 8, 2025

豪ドル、RBA 利下げペースに注目

- ◆豪ドル、RBA 理事会での利下げペースを確認
- ◆豪ドル、RBA 後の賃金指数・雇用統計が今後の金融政策に影響も
- ◆ZAR、米国の高関税賦課も南アへの投資意欲引かず

予想レンジ

豪ドル円 93.00-98.00 円

南ア・ランド円 8.10-8.50 円

8 月 11 日週の展望

豪ドルは 11-12 日に行われる豪準備銀行 (RBA) 理事会の結果に大きく左右される相場になりそうだ。RBA が利下げを継続する可能性が高い中で、RBA の声明文などで、今後の利下げペースを確認することになる。

豪州のインフレは低下傾向にあり、4-6 月期消費者物価指数 (CPI) は前年比 2.1%と前期の 2.4%からインフレ鈍化が確認されたほか、RBA が重視しているトリム平均も 2.7%と 2021 年 10-12 月期以来の低水準となった。RBA 理事会では 25bp の利下げはほぼ確実だろうが、注目されるのは声明文。緩やかな緩和路線になるとの予想だが、FRB が 9 月から利下を繰り返す可能性もあり、RBA の利下げが緩やかになれば豪ドルは対ドルで底堅い動きになりそうだ。

また、先週の米雇用統計発表後にマッケンターファー労働省労働統計局 (BLS) 局長を解任したこともドル売り (豪ドル買い) 要因となっている。後任の BLS 局長はトランプ米大統領の意向に沿った指標結果を発表し、BLS の透明性と信頼性を失うことが懸念されている。BLS は雇用統計だけでなく CPI や卸売物価指数 (PPI) 等のインフレ指標も発表しており、トランプ米大統領の望む利下げへ舵を切りやすいように、「インフレ低下の指標結果が相次ぐ」とのうがった憶測も台頭している。

なお、豪州からは 12 日に NAB 企業信頼感・景況感、13 日に 4-6 月期賃金指数、14 日に 7 月雇用統計が発表予定。賃金指数や雇用統計の結果次第で今後の RBA の金融政策に影響を与えそうだ。

南アフリカ・ランド (ZAR) は底堅くなりそうだ。米国の関税率が 30%に引き上げられたが、南アと米国の関係が冷え込んでいたこともあり、高関税賦課は避けられなかった。ただ、2025 年上半期は南アにとって厳しい状況にもかかわらず、南ア株式市場は好調で、南ア債への投資も進んでいる。ヨハネスブルグ証券取引所 (JSE) は利益が大幅に増加。税引き後純利益 (NPAT) は 13.2%増加して 5 億 5780 万ランド。1 株当たり純利益 (HEPS) は 687.0 セント増加し、前年比 13.4% 増となった。米国の政治・経済的な不確実的要素の高まりなどが、南アなどの新興国市場への資金移動につながっていることが ZAR の支えとなっている。なお、来週は経済指標では、12 日に 4-6 月期失業率、13 日 6 月小売売上高が発表される。

8 月 4 日週の回顧

豪ドルは底堅かった。先週の米雇用統計ショックの影響で、週初の豪ドル円は約 1 カ月振りとなる 94 円台まで弱含んだが、相場が落ち着くと 96 円台を回復する場面もあった。対ドルでもユーロに対してドルが売られた影響もあり、0.65 ドル台を回復した。ZAR は堅調だった。週明けには対円の下落に連れて弱含む場面もあったが、すぐに反転し堅調に推移した。ZAR 円は 8.09 円から 8.30 円台まで上昇した。対ドルでも 18 ランドを維持できず、17 ランド後半までドル安・ランド買いが進んだ。(了)